



**GUNBOH**

# 群 萌

第172号 2009年12月15日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-10

本郷TKビル1F

TEL 03 (3868) 9663

FAX 03 (3868) 9664

発行責任者 秋田 孝弘

編集者 総合企画委員会 情宣グループ

gs03@kagaku-s.jtuc-rengo.jp

## 化学総連 第32回定期大会開催される！

9月28日(月)、岡山県岡山市「乃利武」において、役員・代議員・地連代表幹事など、総勢120名が参加し、開催されました。

本年は活動方針補強の年であり、各議題はそれぞれ全会一致で承認・可決されました。

本大会は、金澤副会長（旭硝子労組）の挨拶で始まり、議長団に若田代議員（チッソ労組）、吉富代議員（宇部興産労組）の両名が選出され、書記には瓜生代議員（旭硝子労組）が選出されました。

秋田会長の挨拶では、厳しい経済環境、化学産業を取り巻く環境を述べるとともに、補強方針年度においても、産業政策活動を最重要課題としていく考えを述べられ、JEC連合との連携やJEC総研への運営参加による「化学・産業政策委員会」の有効活用、国際的な化学物質管理規制に対する対応、総合的労働条件改善・制度改革への取り組み、調査情報・教育研修・情宣活動の活性化、関連企業労組連携の促進、外部組織との連携など、「友愛と信義」という化学総連固有の活動ベースを認識しながら、新たな活動方針における課題の考え方を述べられました。

報告事項では錦織事務局次長より「2009年度 活動経過報告」、小見山事務局長より「2009年度 会計報告」、大塚会計監査より「2009年度 会計監査報告」がなされました。

議事においては、湯田副会長（DIC労組）より第1号議案「2009・2010年度活動方針補強（案）」、小見山事務局長より第2号議案「2010年度予算（案）」、高橋会長代理より第3号議案「役員選出について」が提案され、それぞれ全会一致で承認されました。



チッソ労組 若田代議員（左）、  
宇部興産労組 吉富代議員（右）



会場全体風景

その後、今大会をもって退任される3名の役員に対し、感謝状及び記念品を贈呈し感謝の意を表すとともに、退任者の中から松本前幹事（チッソ労組）、錦織前事務局次長（住友ベークライト労組）よりご挨拶がありました。

引き続き2010年度新役員紹介の後、新役員を代表して秋田会長より挨拶をいただきました。

最後に本間副会長（積水化学労組）より閉会の挨拶がなされ、第32回定期大会は盛会裏に終了しました。

# 会長挨拶

## 産業政策活動の長期的目標に向けて！



挨拶する化学総連 秋田会長

化学総連第32回定期大会に際して、政策委員会・幹事会を代表し一言ご挨拶させていただきます。また、この一年、「友愛と信義」に基づく加盟21単組の信頼関係をベースとした組織運営と諸活動へのご理解・ご協力に対し、感謝いたします。

取り巻く環境認識ですが、経済環境は昨年来のリーマンショックに始まる世界的な同時不況という混迷から、今日では政府による景気対策や在庫調整の進捗など、国内製造業の持ち直し基調が出始めたものの、円高の進行や外需依存の構図は変わらず欧米向け輸出の低調、国内雇用環境の悪化、所得状況の悪化から消費支出回復の遅れ等々、今

後原油高騰などの動向によっては、先行き不安はさらに増し国内景気の2番底すら言われており、楽観視は許されない状況です。

このような中で化学産業を取り巻く環境ですが、多くの国内化学企業の収益は赤字基調から完全には脱しえず、加えてREACH・SAICMに見られるような世界的な化学物質管理規制強化の負担、地球温暖化防止対策やGHG削減中期目標の設定による負担増への懸念など、化学産業を始めとする多くの産業へのアゲインストが、国内景気回復に際しての大きな足かせになる不安材料となっています。特に政権与党となった民主党が示している、GHG削減中間目標を対90年比マイナス25%という厳しい数値設定に対しては、私たち産業別労働組合の役割として、産業界を含め国内化学産業労働組合とも連携しながら、化学産業政策の一環として産業活性化と企業の存続、生活・雇用基盤の確保を見据えて、取り組んでいかなければなりません。

以上のように取り巻く環境は、非常に厳しいものがありますが、ここでは、中間年に於ける活動年度を迎えるにあたって、その概要について述べます。

今2009-2010年度に於ける活動方針に基づくこの一年の活動は、30周年記念行事を始めとして、産業政策・業種対策活動、単位組合を主体とした総合的労働条件の維持改善、調査・情報・教育活動などの総合企画委員会活動、関連企業労組・友好企業労組との連携促進、外部組織との連携、そして09年に発足させた、将来を見据えた組織・財政検討委員会の設置により課題に検討着手など、従来の活動に加え環境変化に対応した取り組みを行って来たところ です。

さてこの補強方針年度においても、従来から取り組むテーマや方針から基本姿勢に大きな変化はないと考えて、産業政策活動を最重要課題とします。国内化学産業が発展し企業が永続的に存続し

ていくことで、延いては私たちの雇用と生活環境を充実させていく、という産業政策活動の長期的目標に向けて、JEC連合とのより一層の連携やJEC総研への運営を基に、「化学・産業政策委員会」を有効に活用します。また、ICEM-JAFに於ける活動を土台に「化学産業政策シンポジウム」の開催も化学産別労組・業界・行政の三者間が有機的に連携できるよう内容の充実・工夫に努めます。

また、国際的な化学物質管理規制やその動向に関して、ICEMに於ける活動を通して国際的な化学政策交流を他の産業別組合、行政や業界とも密接な連携のもとに必要な対応を図っていきます。

次に、総合的労働条件改善・制度改革への取り組みは、加盟各組合の主体的な取り組みを基本とし、化学総連は、的確な情報提供や、加盟単組間の情報共有化に向けた、機会の充実を図ることで産業別組合としての役割を果たしていきます。

調査情報・教育研修・情宣活動については、事務局業務軽減化の基本は踏まえながらも、前期の反省を活かし実務遂行における工夫を加え、各グループ活動の円滑な運営に努めます。また、化学総連の活動の見える化は勿論のこと、総合企画委員会の効率的・効果的な運営を進め、一層の活性化を目指します。

関連企業労組連携は、昨年度ダイセル化学労組傘下のポリプラスチック労組の加盟を頂きましたが、引き続き加盟促進に努めます。友好組織との連携促進で電化労組とは、定例会等での議論を深め、諸活動への参加を得ながら引続きより進んだ連携のあり方を模索していきます。そして地連活動への対応は、従来通り情報交換・交流を主に地連活動マニュアルの活用のもと展開するとともに、より一層の活動についての見える化を進めます。

外部組織との連携については、従来通り連合に加盟する一員として、主体性をもって応分の責任と役割を果たしていきます。ICEM-JAFについては、国際的な化学産業別組合との連携を図りながら、欧米をはじめとした化学品管理規制等への情報交換を含めた対応を図っていきます。JEC連合とは、連合窓口一本化と産業政策活動についての連携を深めるとともに、JEC総研の運営に積極的に参加していきます。

組織・財政検討委員会は、取り巻く環境変化に対応しこれまでも都度時代の流れを反映し、組織運営や財政面での見直しを図ってきましたが、昨今の環境変化や取り組むテーマの変化など、的確に捉えながらしっかりと議論し、成案が出来次第、皆さんとの議論を踏まえ次期運動方針に繋げられるよう、取り組みます。

以上、新たな活動方針に於ける課題の考え方の一端を述べましたが、「友愛と信義」という化学総連固有の活動ベースをしっかりと認識し、加盟単位組合の主体性を尊重した組織運営に徹して、力強く前進していきたいと考えます。加盟組合のご理解とご協力をよろしく申し上げます。



## 2009・2010年度活動方針補強

### 1. 産業・業種対策活動

化学総連における産業・業種対策活動は、化学品規制問題から地球環境問題など、幅広い対応が求められる中、ますます重要な位置づけになってきています。

今年度も、以下の具体的な活動に取り組んでいきます。

#### (1) 産業対策活動

##### 《基本的な活動項目》

- ①関連法案法制化の事前段階でのパブリックコメント等の意見提言活動、行政への意見具申活動
- ②重要課題に対する各種研修会での講演・レクチャーの開催、支部組合員も含め広く認識・醸成を図るための事業所見学会等、情報収集、見聞・見識を深めていくための諸活動
- ③ホームページ、機関紙を通じた「化学総連の産業、業種、環境対策」などの問題に対する基本的スタンスや具体活動の内外への情宣・PR・啓蒙活動

##### 《今年度の重点課題》

#### ①化学物質管理に関する対応

【国内】化管法、改正化審法、PRTR、MSDS等に関する動向等の情報収集に努めつつ、必要に応じてパブリックコメント等の対応も検討していきます。

【国際】「REACH」「SAICM」等の情報把握に努めるとともに、必要な対応も検討していきます。また、「ICEM-JAF化学委員会」「IGBCE」「EMCEF」等との情報交換会にも、引き続き参画していきます。

#### ②地球温暖化問題への対応

地球温暖化問題、省エネ改正法等のタイムリーな情報把握や的確な対応に取り組んでいきます。

#### ③国政レベルの関連施策等への対応

化学産業の持続的発展に向けた関連施策の動向把握や意見反映に取り組んでいきます。

#### (2) 業種別委員会活動

各業種別委員会の自主的な運営を基本に、必要に応じて化学の他産別との連携も図るなど、業種ごとに共通する具体的な産業政策課題に取り組みます。

#### (3) 化学関連産別との活動の連携強化（化学産業政策フォーラムの実現に向けて）

化学総連における基本的な対応スタンスは、化学・エネルギー産別が現状の組織を維持した上で、産業政策課題を中心とした緩やかな連携が図れるような結集体・結集を求めていくこととします。

##### ①ICEM-JAFとの連携

「化学委員会」や「化学産業政策WG」での活動を通じて、国際的な対応を図りながら、この活動が化学産業政策フォーラム構想実現の土台になっていけるよう、化学の他産別との情報・意見交換に取り組んでいきます。

また、「化学産業政策シンポジウム」については、化学関連産別・業界・行政の三者間の有機的な連携の深化に向けて、更なる内容の充実・工夫に努めていきます。

##### ②JEC連合（化学部会、総研）との連携

「JEC総研運営委員会」については、事務局マターで開催していくことに変更します。

また、「化学・産業政策委員会」については、産業政策に関わる動向の把握に努めながら、化学・産業政策活動の更なる充実・強化を図っていきます。

### 2. 総合的労働条件改善、制度改革への取り組み

化学総連における春季生活闘争については、「『雇用の確保』を共通課題に置きながら、具体的な要求設定・活動の推進については各単組の自主性、主体性に委ねる」ことを基本的な考え方としてきました。

引き続き、加盟単組の取り組み事例や制度内容を

共有できるような機会を充実していくことや、外部の先進事例の情報や識者の意見を、各種研修会や諸会議等を通じて提供していくことで、産別としての役割を果たしていきます。

### 3. 調査情報・教育研修・情宣活動などの内部活動の充実に向けて

#### [総合企画委員会]

- ①事務局会議で、各グループの状況把握、情報の共有化と認識の統一を図っていきます。
- ②事務局会議で、化学総連事務局の各グループへの関わりについて整理・検討を進め、必要に応じて化学総連事務局体制のあり方など、政策委員会、幹事に提言を行います。
- ③事務局会議で、総合企画委員会の効率化と書記長会議の位置付けを整理し、具体的な活動の展開について検討します。
- ④総合企画委員会、各グループ会議開催の年間計画を立て、活動の円滑化・充実を図ります。
- ⑤効率的運用を目指し、総合企画委員会を1月の幹部研修会と併せて開催します。
- ⑥総合企画委員会の年間活動計画について検討を行い、次年度活動計画に反映させます。
- ⑦海外労働事情調査団については、世界各国の経済情勢や化学産業の動向を参考に、ニーズに即した内容で開催します。
- ⑧各種担当者会議については、各単組のニーズを把握する中で、必要に応じて事務局会議で企画立案を行い開催します。

#### [調査情報活動]

- ①Web版労働条件基本台帳の機能充実を進め、情報の共有化における強化を図ります。
- ②ホームページの有効活用  
オプション調査の取り組みや、生活闘争情報の随時更新により、タイムリーな情報を掲載します。
- ③調査担当者会議を通じ、時代に即した情報交換に努めます。

#### [教育研修活動]

- ①幹部研修会  
多様化する組合活動に即したテーマの選定、研修会のあり方について検討し内容の充実を図ります。
- ②支部役員研修会  
化学総連の組織・活動を理解していただく内容とします。  
また、同業他労組との連携と課題の共有化、情報交換による個々のスキルアップを図ります。

#### [情宣活動]

- ①機関紙「群萌」を年2回発行します。
- ②ホームページの充実  
・掲載内容については、加盟単組のニーズを把握・反映させるとともに、会員向けホームページには、各単組で活用できるような資料を作成し掲載します。  
・化学総連事務局の作業軽減に向けて、会員向けホームページへのファイルアップ権限の一部を、情宣グループリーダーに付与し改善を図ります。
- ③加盟単組における情宣活動のフォロー

#### [その他の内部活動]

社会福祉活動の一環として、年末社会福祉カンパの取り組みを行っており、カンパ金の一部は連合愛のカンパ、止揚学園に拠出し、更に、「化学総連の森づくり」活動の一環として、緑の募金、オイスカ子供の森計画へ寄付を行っています。

今年度も継続して社会貢献活動を充実させていきます。

### 4. 関連企業労組・友好組織との連携促進および地連活動への対応について

#### [関連企業労組・友好組織との連携促進]

##### (1) 関連企業労組・友好組織との連携促進の取り組み進捗状況

関係企業労組との連携促進では、ダイセル化学関連労組のポリプラスチック労組との連携を図ることができ、また、化学の仲間の幅広いネットワーク創りでは、友好組織である電気化学労組と更なる連携強化に向けた活動を進めてきたところです。

##### (2) 今後の取り組みについて

- ①関連企業労組促進に向けた取り組み  
これまでの活動を基本とし、加盟促進に努め、検討が進められている単組のグループ単組・労協には、積極的な情宣啓蒙を進めることとします。
- ②電気化学労組との更なる連携促進に向けて

一層の相互理解と連携促進に向けて、定例会議の充実を図り、研修会・会議などへ積極的に参加頂けるよう取り組みを進めます。

- ③化学の仲間の幅広いネットワーク創りへの取り組み  
事務局、政策委員会を中心に、友誼団体及び連合未加盟労組と連携促進に向けて、検討を進めます。

#### [地連活動への対応]

地連構成組織間の情報交換及び相互交流を基本とし、具体的な活動については「地連マニュアル」を活用し、展開しています。また、地域ブロック活動も強化し、今後も相互の情報交換と認識の共有・統一を図り、“より身近に感じる化学総連”の具現化に向け取り組んでいきます。

## 5. 外部組織との連携について

### (1) 連合（日本労働組合総連合会）

労働組合の政策形成能力の向上、社会的影響力の強化、国際連帯活動、制度政策要求の推進などを通して、広く働く者の総合生活改善に寄与することを目的として連合に加盟しています。

連合は、結成以来私たちの生活改善のために多くの成果を上げてきましたが、今後取り組んでいかなければならない課題は山積しています。

私たちは、加盟組織の一員として、連合の更なる機能の向上や影響力の拡大に向けて応分の責任と役割を果たすと同時に、個別の課題についても十分に論議を深め主体性を堅持しつつ取り組みを進めていきます。また、地方連合との連携については、地連代表幹事が中心となり自主性と主体性を持ちつつ、可能な限りの対応をしていきます。

### (2) ICEM（国際化学エネルギー鉱山一般労連）

ICEMは、世界の化学・エネルギー・鉱山に関する労働組合の産別によって構成されており、世界的な産業ボーダレス化が進む中で国際連帯活動や発展途上国への支援、安全衛生にかかわる活動を幅広く展開しています。

ICEM-JAFは、日本国内のICEM加盟組織で構

成され、ICEMへの窓口機能や国際連帯、国際交流、調査活動を中心に取り組みを進めています。

欧州におけるREACH問題、国連の提唱するSAICMといったグローバルな課題に対応していくためには、国内におけるICEM-JAF活動の充実・強化が必要です。引き続き化学委員会のなかで対応していきながら活動や取り組みの充実・強化を図り、日本の化学産業労働組合の立場として、国際的な化学品安全問題等に対応していくよう、働きかけていきます。

また、国際的な化学物質管理・規制に関する対応や国際的な産業政策活動の充実に向けて、ICEMにおいて「化学産業グローバルネットワーク会議」の実現を目指して引き続き取り組んでいきます。

### (3) JEC連合との関係

連合窓口一本化を継続しながら産業政策活動の連携を一層深めるとともに、定例会等を通じた意見交換を進めていきます。

併せて、JEC総研への運営参加を行い、更なる連携を強化し、産業政策活動に資するとともに活動や取り組みの一層の充実・強化を図っていきます。

## 6. 30周年記念行事について

化学総連は昨年度、結成30周年を迎えました。私たちの活動を次世代へと継承し、内外にPRするための記念行事や社会貢献活動を以下のとおり実施しています。

### ◆スローガン

『絆で結ぶ人と化学 次代を創る化学総連』

“友愛と信義の固い絆をもって、労働者（人）と化学産業（化学）のお互いの幸せと発展を期すべく、化学総連がその一定の役割を果たしていく”

### ◆“魅力ある・社会に貢献する化学産業”のPR活動

#### ①「化学総連の森づくり」

単独の森づくりに向けた検討は継続しつつ、当面は、地球温暖化防止・社会貢献（化学総連の森づくり）の趣旨を新たに加えた、昨年来の取り組みを行います。

#### ②日化協等との連携（化学労使としての社会貢献活動の具体化

日化協が展開している「ABC（アクセル・バイ・ケミカル）活動」を引き続き加盟単組にPRしていきます。

## 7. 将来を見据えた組織・財政基盤の確立に向けて

化学総連は、設立以来三十余年にわたり、幾多の困難を乗り越え、内外の様々な課題に対して大きな成果をあげてきました。その間、私たちは『産業政策』と『総合的な労働条件の改善』という2本柱を軸としながら、社会からの要請に応じた責任と役割の増加、単組からのニーズに合わせ活動の領域を広げ、活動の効率を求めながらも、効果を最大化するために加盟単組の協力を得ながら組織・財政・活動を見直し、今日に至っています。

激変する環境の中で、引き続き責任と役割を果たしていくことは、現在の組織・財政運営のままでは非常に困難であると言わざるを得ません。

この課題に対応するため、2009年5月に「組織・財政検討委員会」を設置し、既にこの課題に取り組んでいます。加盟単組や事務局の負担が増している現状も踏まえながら、同委員会での議論を中心に進め、将来を見据えた組織・財政基盤の確立を目指し取り組んでいきます。

# 退任役員並びに新年度役員紹介

## 2010年度 役員

会 長	秋田 孝弘	三井化学労働組合	中央執行委員長
会長代理	高橋 義光	信越化学労働組合	中央執行委員長
副 会 長	高田 武	住友化学労働組合	執行委員長
〃	本間 克己	積水化学労働組合	中央執行委員長
〃	笠原 明	昭和電工ユニオン	中央執行委員長
〃	湯田 佳彦	DIC労働組合	中央執行委員長
〃	金澤 実	旭硝子労働組合	中央執行委員長
事務局 長	小見山 修	DIC労働組合	特別中央執行委員
事務局次長	瓜生 泰則	旭硝子労働組合	特別中央執行委員
幹 事	八尋 孝	三菱樹脂労働組合	中央執行委員長
〃	高村 利之	日本ゼオン労働組合	中央執行委員長
〃	守口 英児	三洋化成工業労働組合	中央執行委員長
〃 *	大塚 一男	日本板硝子労働組合	中央執行委員長
〃	辻 昭一郎	丸善石油化学労働組合	中央執行委員長
〃 *	佐藤 厚弘	東燃化学労働組合	執行委員長
〃	村岡 健	住友ベークライト労働組合	中央執行委員長
〃	長野 慎哉	ダイセル化学労働組合	中央執行委員長
〃	林 貴幸	日信化学労働組合	執行委員長
〃	岸 宏樹	昭和高分子労働組合	中央執行委員長
〃	清田 智昌	JSR労働組合	中央執行委員長
〃	武田 義規	カネカ労働組合	中央執行委員長
〃	若田 正徳	チッソ労働組合	中央執行委員長
〃	吉富 健治	宇部興産労働組合	委員長

\* 会計監査を兼ねる。



退任された宇部興産労組 二宮前副会長



退任されたチッソ労組 松本前幹事



退任された錦織前事務局次長



# タウンミーティング開催される！

『絆で結ぶ人と化学 次代を創る化学総連』の具現化に向けて

地連タウンミーティングは、今後の化学総連を担う人材育成の観点から従来のブロック枠を越えた幅広い地連活動として展開してきました。各地域で開催されたタウンミーティングの内容は、地連メンバーに加え会長や会長代理または各副会長、並びに事務局が分担して参加し、本部からの講演や参加者による意見交換を行う中で総連活動や各々の役割などについて改めて理解を深めるとともに、これまで接する事が少なかった他の地連のメンバーと懇親を深め新たな絆を確認することが出来ました。



ブロック	地連名*( )内は欠席	日時
北海道・東北	青森・福島・(北海道)	09.5/22～23
北関東	群馬・栃木・埼玉・東京	09.7/4
南関東	神奈川・茨城・千葉・	08.12/2
東海	静岡・愛知・三重	09.7/14～15
北信越	新潟・富山・石川・長野	09.6/23～24
京都福井滋賀	福井・滋賀・京都	09.8/28～29
阪神岡山	大阪・兵庫・岡山	09.5/10～11
中四国	広島・山口・愛媛	09.1/27
九州	福岡・大分	09.6/19～20

